

経営比較分析表／団体全体（令和4年度決算）

神奈川県 川崎市

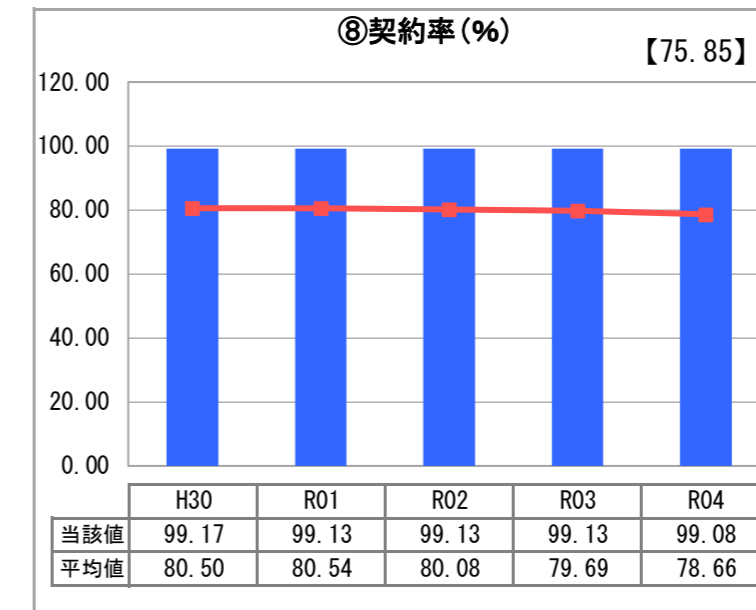
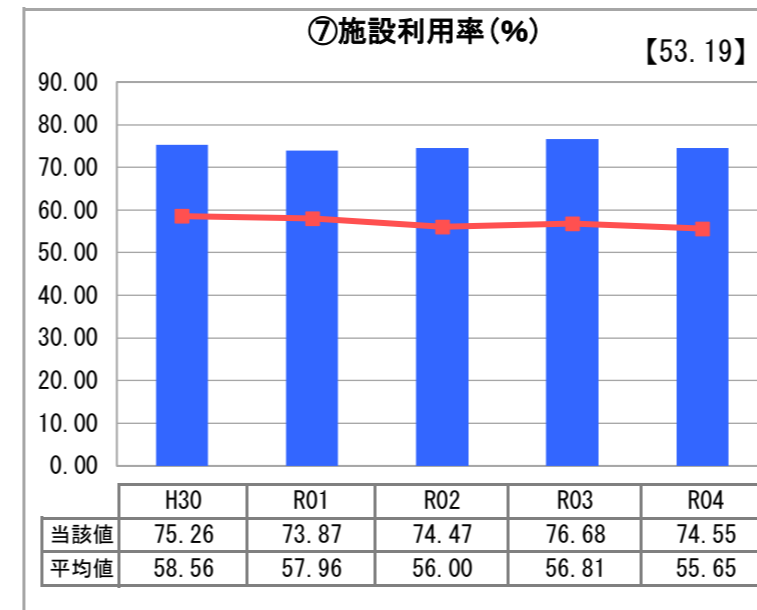
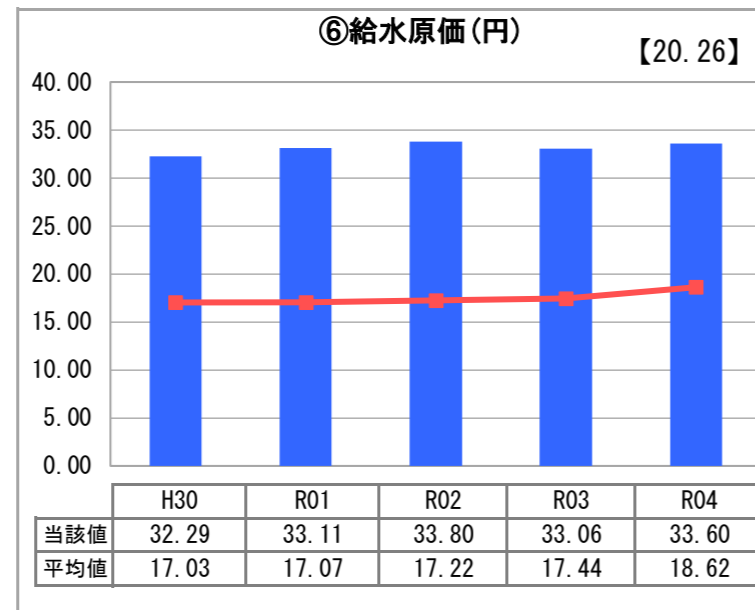
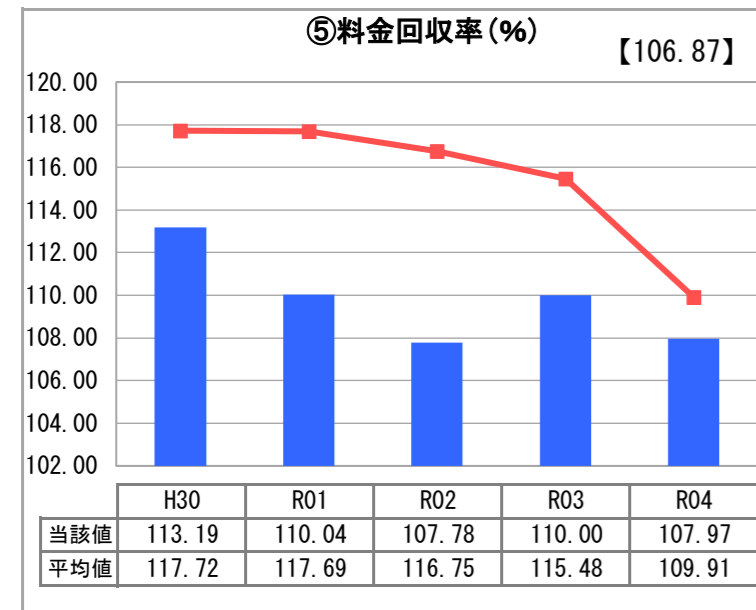
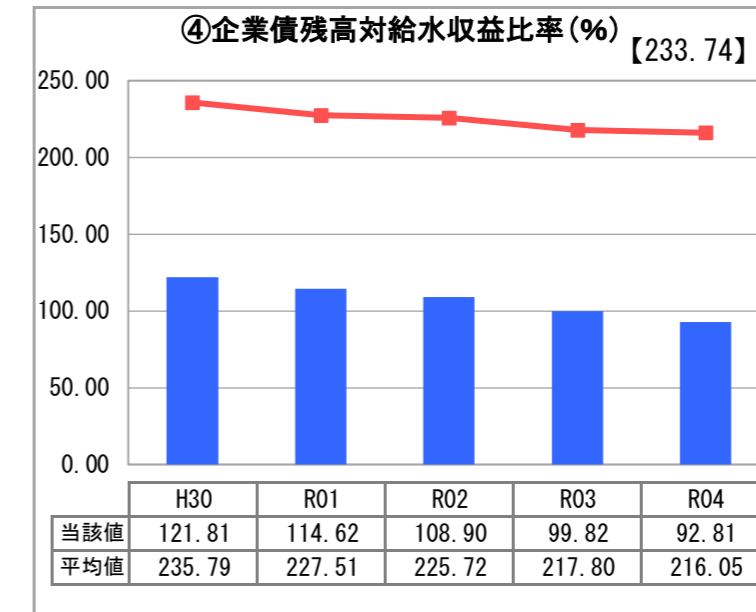
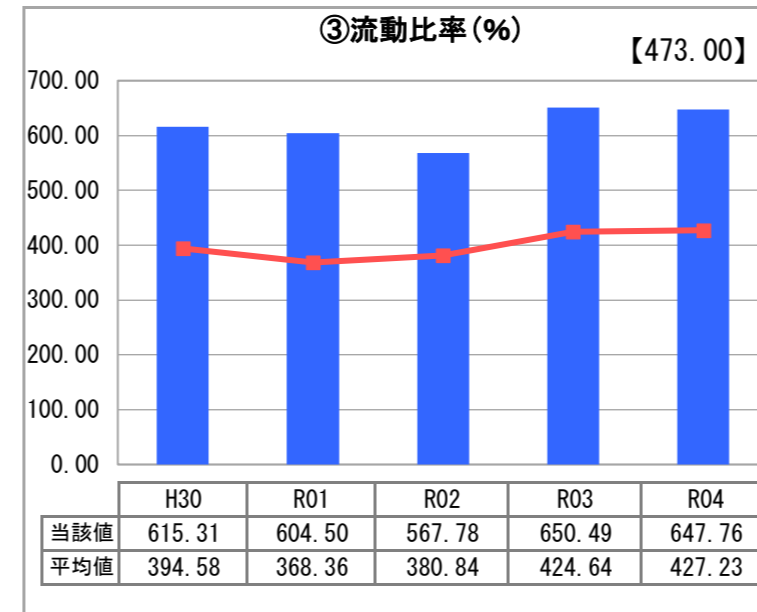
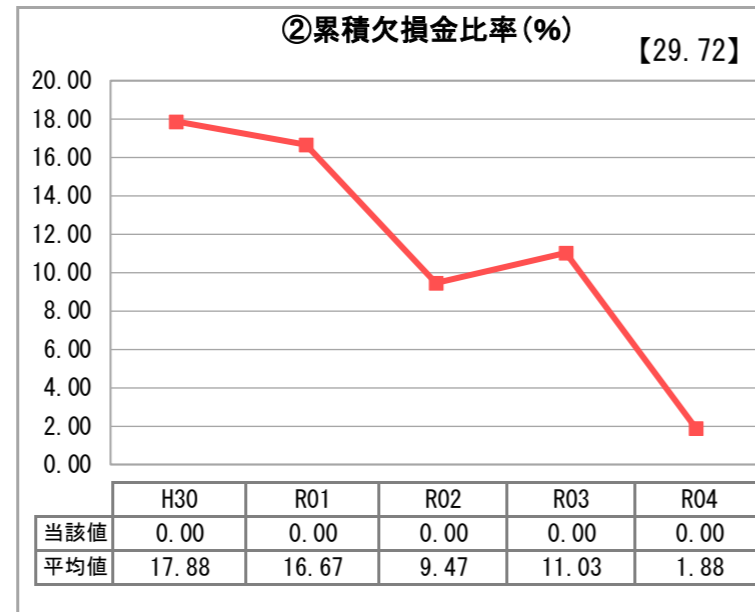
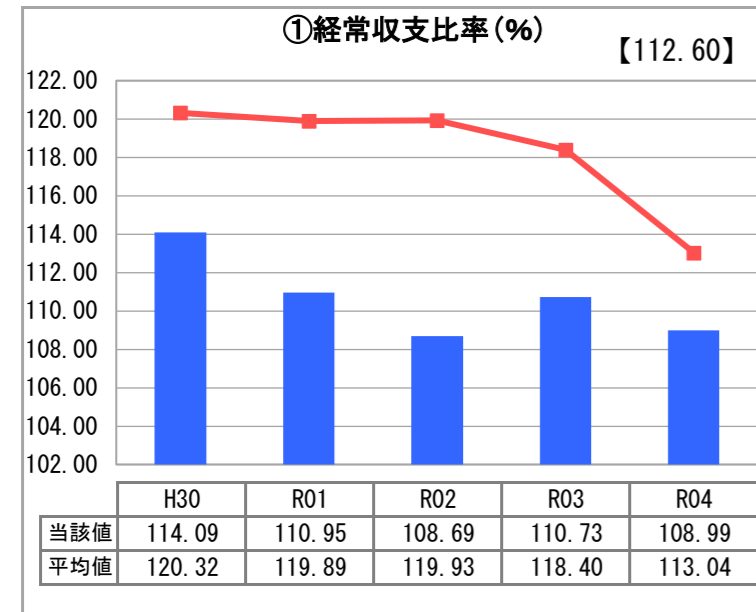
【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	520,000	大規模	1	387,661
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	74.2	77	515,220	自治体職員	

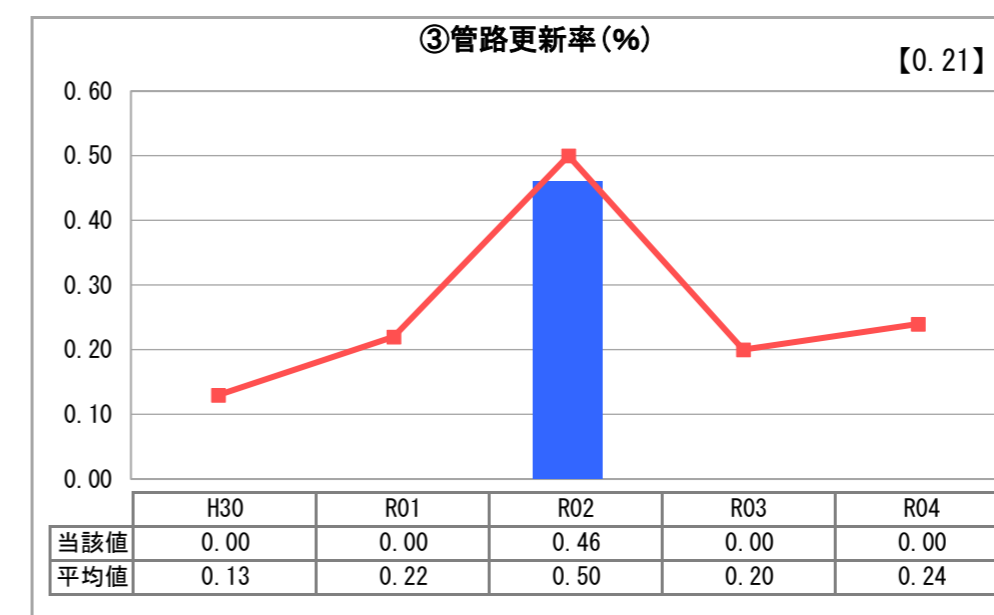
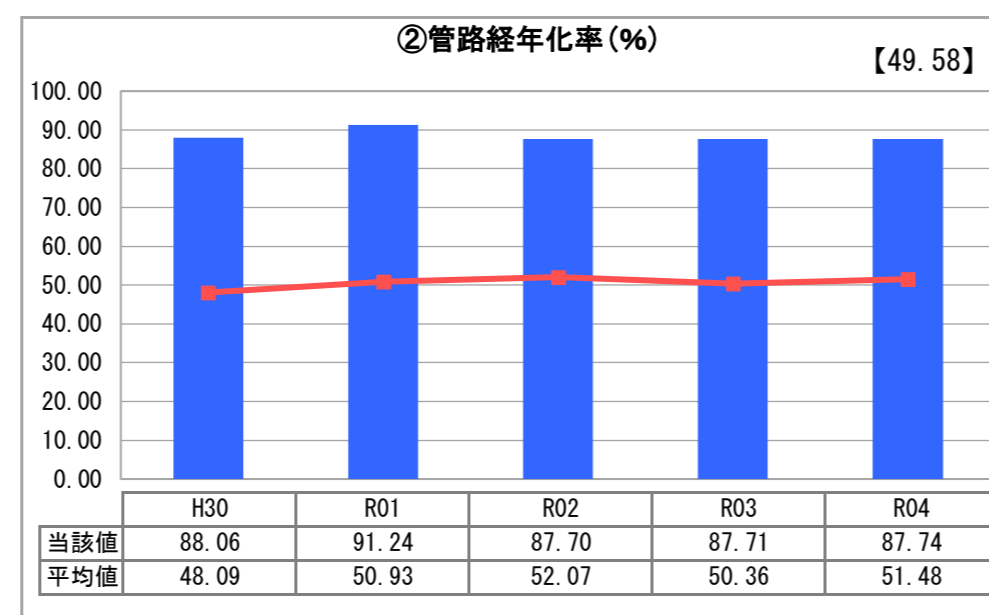
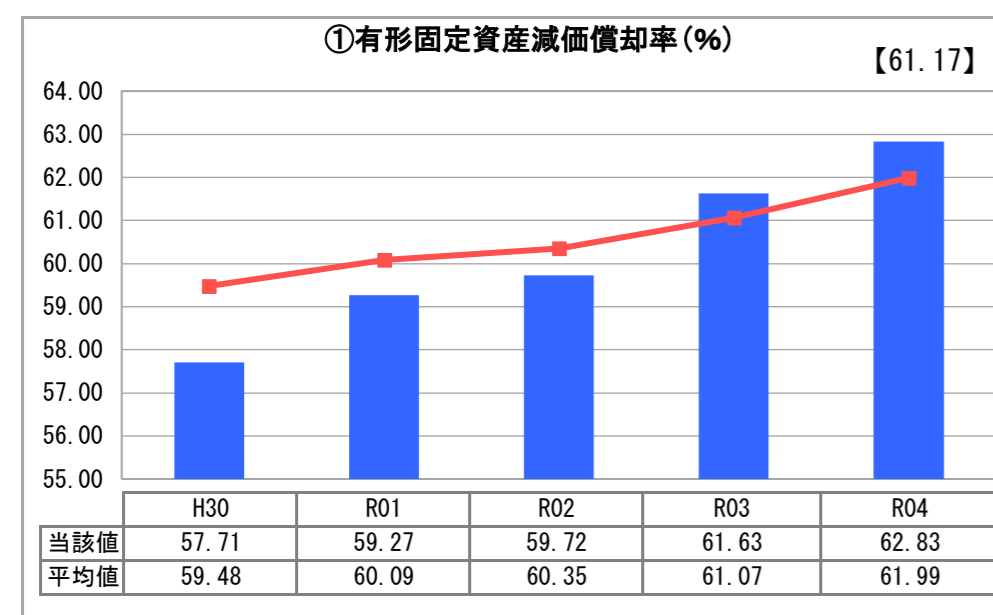
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

○①経常収支比率は、類似団体平均を下回っているものの、100%を上回っており、②累積欠損金は計上されていないため、経営の健全性を維持しています。また、③流動比率は、類似団体平均を上回っており、短期的な資金繰りには問題ないものと考えます。しかし、今後、老朽化対策等により更なる更新需要の増加が見込まれることから、長期的な経営状況を考慮し、④企業債残高対給水収益比率が増加しすぎないように留意しながら、更新を計画的に進める必要があります。

○⑤給水原価は、類似団体平均を上回って推移しているものの、⑤料金回収率は100%以上を維持していることから、給水に係る費用を給水収益で賄えています。

○⑦施設利用率及び⑧契約率は、類似団体平均を上回って推移しており、施設が効率的かつ適正な規模で運用されています。

2. 老朽化の状況について

○管路更新を計画的に進めているものの、本市は中大口径の管路が多く、更新工事が複数年度に及び、管路更新延長を工事完成年度にのみ計上しているため、③管路更新率は、類似団体平均を下回って推移しています。また、①有形固定資産減価償却率及び②管路経年化率が、類似団体平均を上回って推移していることから、資産の老朽化が進行している状況であり、施設・管路の更新が喫緊の課題となっています。

全体総括

○今後は、老朽化の状況に関する指標が示すとおり、老朽化が進んでいる施設・管路の更新に伴い、更新需要の増加が見込まれるため、アセットマネジメント手法等を活用した効率的かつ計画的な更新が必要です。

○将来の需要動向を可能な限り把握するとともに、将来にわたって安定給水ができるよう、ハード・ソフト両面から、更なる基盤強化に向けた取組や検討を進めます。